

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2907

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	☐対面（—————）	
				☐オンライン（同時・録画・資料提示）	
				■その他（未定）	
	正式科目名 副題	企業会計		配当年次	2・3
			受入学年		
学問分野	番号	24	名称	社会科学系 商学・経営	
3. 担当教員名	池村 恵一				
4. 単位数	2単位	5. 開講学期	前期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2022年 9月 ※調整中 曜日 : ~ :				
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	5人	9. 選考方法	書類選考		

10. 科目内容・ 授業計画	<p>会計は、企業経営にとどまらず、国や地方自治体などの公的部門においても、行政のアカウンタビリティ（説明責任）の向上やディスクロージャー（現状、活動内容、活動成果などに関する情報の開示）の充実を図る目的で重要な役割を果たしているといえます。会計は、企業や公的部門の組織の活動にかかわる重要なコミュニケーション・ツールとされています。学生諸君が卒業後どのような職業に就いても、会計の基本的な知識は、語学・ITとならび重要な役割を果たすことが期待されます。</p> <p>会計学は、簿記、財務会計、原価計算、管理会計、経営分析、会計監査、国際会計、税務会計、公会計、NPO会計など多岐にわたる領域を含んでいます。この授業では、とくに企業会計と位置付けられる財務会計を学び、そのあとで会計学の諸領域に広く目を向け、現代会計の基礎的な知識を修得していきます。</p> <p>*会計学を初めて学ぶ学生向けに、簿記の説明にも十分時間をとります。簿記を学ぶことで会計の意義をよく理解することができます。また、この授業を履修した後に基盤科目「会計学」を履修されると、「会計」についてより効率的に学習することができます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の会計制度の全体的な構造を自己の言葉で説明できる。 ・会計学の諸領域に関する基礎知識を自己の言葉で説明できる。 <p>【授業の内容】</p> <p>第1回 ガイダンス-会計とはなにか （キーワード） 会計情報のディスクロージャー、アカウンタビリティ</p> <p>第2回 歴史からみる会計学・簿記 （キーワード） 複式簿記の歴史</p> <p>第3回 基本財務諸表 （キーワード） 貸借対照表と損益計算書</p> <p>第4回 複式簿記① （キーワード） 財産法と損益法</p> <p>第5回 複式簿記② （キーワード） 取引と仕訳</p> <p>第6回 制度会計 （キーワード） 金融商品取引法会計、会社法会計、税法会計、トライアングル体制</p> <p>第7回 決算書の情報を分析する （キーワード） 財務諸表、経営分析</p> <p>第8回 決算書の情報を分析する（演習） （キーワード） EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)</p> <p>第9回 税の基礎知識 （キーワード） 税務（税法）会計、租税法律主義、確定決算主義、「ふるさと納税」</p> <p>第10回 監査の基礎知識 （キーワード） 会計監査、監査人（公認会計士・監査法人）、監査人の独立性</p> <p>第11回 会計に関連する職業・資格試験 （キーワード） 会計プロフェッション、公認会計士、税理士、日商簿記検定</p> <p>第12回 事例紹介①（マルチメディア）</p> <p>第13回 事例紹介②（マルチメディア）</p> <p>第14回 グループワーク①</p> <p>第15回 グループワーク②</p> <p>**以上の授業計画については、若干の変更・修正の可能性があります。</p>		
11. 試験・評価方法	<p>【単位修得要件】 集中講義であり、原則として100%の出席を成績評価の対象とします。</p> <p>【成績評価基準】 集中講義最終日のプレゼンテーション（グループワークによる）と、平常点（授業中の数回のミニレポート等）により総合的に評価を行います。 （成績評価の配点方法：プレゼンテーション40%、平常点60%）</p>		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	<p>参考文献： 新井清光・川村義則、『新版 現代会計学〔第3版〕』中央経済社。定価：2,640円 *授業ではテキストを要約したレジュメを配付します。 **購入する場合は最新版のものを購入してください。</p>		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。